

就任にあたって 関西支部 支部長 長谷川和彦

まずは、日本船舶海洋工学会の正員の皆様、そして、関西支部に所属される正員、学生員の皆様、就任に当たり、ご挨拶申し上げます。

日本船舶海洋工学会関西支部の活動は、ユニークです。その多くは、会務委員会の提案により運営委員会の議論を経て実現したものであり、それぞれ、大学や企業において、業務多忙な中参加されている会務委員諸氏にまずは敬意を表したいと思います。かく言う私も関西造船協会時代から会務委員を経験させて頂き、多くの企画に参加して参りました。関西支部の良いところは、どのような企画であっても、運営委員会では前向きに検討して頂けることです。本部規則で2年後に廃止が決定する予定（注、5月28日の総会で廃止が決定しました）の商議員制度ですが、関西支部では引き続き、新しい商議員として存続することにしています。支部を運営する運営委員はごくわずかな関係機関からしか選ばれておりません。関係する主な機関から商議員として支部運営に携わって頂くとともに、支部活動のサポーター、あるいは、正員の代表としての役割も担って頂くことを狙っており、これも関西支部らしい決断かと思えます。

一方、研究委員会が企画するシンポジウムは常にその時々でもっともホットなトピックスを選び、実施しておりますし、「KANRIN」は編集委員会のもと3支部が協同して企画・出版しております。

関西支部には他の支部にはない、あるいは、他支部の活動に影響を与えるものもあります。家族会、見学会は関西造船協会の時から引き続き実施しているもので、会員相互の親睦を大切にしている関西支部らしい活動です。

本日、授賞式と受賞者によるプレゼンテーションもユニークです。論文や著書だけではなく、むしろ、本部では受賞対象とならないものを受賞対象としたこと、そして、総会に出るだけで徳をしたような気になる受賞者による論文賞でないゆえのユニークな発表も他支部にはないものです。

また、会員を単に論文発表や講演会参加というメリットだけで勧誘するのではなく、学会という立場ならではの活動から行おうとしたものもあります。佐田国前支部長の発案で2年前から始まった若手造船技術者技術交流会です。私自身も会長として参加させて頂き、若い造船技術者が他の造船所や他業種の工場見学、そして、参加者相互の交流を通じて確実に成長していく様を見させて頂いています。

関西支部には会員を長く継続された方のユニークな活動もあります。K シニアと呼ばれるグループです。本来であれば、学会活動とは無縁となる年代になってから、ほとんどボランティアとして、そして自主的なサークルとしてさまざまな活動や支部の運営のお手伝いなどをして頂いています。種々の技術的問題の提起やディスカッション、興味ある洋書の翻訳、地域の小学校などでの海洋思想の普及活

動などを実施されておられます。さらに、昨年度からは造船資料・用具調査・保存委員会の活動が始まりました。その豊富な知識や経験を最大限に利用された活動には、頭が下がる思いがします。その活動力、組織力、そして、分析力には、我々も見習うべきところであり、これからの学会活動の新しい方向を示唆するものとして、関西支部としては誇るべき活動だと自負するところです。

学会活動はこうした委員会などの活動だけではなく、講演会を実施して、最先端の研究成果を発表するとともに、同分野の研究者や技術者と真摯なディスカッションを実施することが、その基本です。学生員や新しく会社に就職された若い会員を勧誘し、彼らに、こうした最先端の研究に触れる機会を与えなければなりません。そして、こうして入会された会員が入会して良かったと思う論文を多数発表して頂くことが、学会運営の原点だと思いますので、会員各位の積極的な論文投稿や講演会への参加をお願いするところですし、会務委員諸氏にはそのための方策なども考えて頂きたいところです。

私はこれまで、関西造船協会当時から会務委員として、理事あるいは、運営委員として会の運営に携わってまいりましたが、これからは、その責任者として、そして、本部の副会長として、皆様の活動を支援し、本部との橋渡しをする役目を担わなくてはなりません。まだまだ、経験不足、力不足ではございますが、諸先輩が長い時間をかけて築かれた関西支部のよき伝統を守り、学会発展のため、そして、支部運営のため、尽力する所存でございますので、引き続き、諸先輩および皆様方、そして、学会を支える教育機関や研究所、産業界の皆様のご支援をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。



2009年5月15日 関西支部通常総会
於 三菱重工業(株)神戸造船所